

[ホーム](#) > [市民レポーター](#) > **市民プラザに「腕用（わんよう）ポンプ」が登場！！**

市民プラザに「腕用ポンプ」が登場！！

市民プラザに行くと、赤い車が展示されていました。近づいてみると、現代のものではない、懐かしい感じが漂う車でした。そう、これは「腕用（わんよう）ポンプ」と言って、大正11年、当時の神山村消防組【現在の第一分団で、旧神山村（上の原・神宝町・金山町地区の旧名称）に配備されたもので、その当時は、火災が起きた際、第一線に活躍していたとのことでした。

この腕用ポンプは、昭和35年に起きた火災現場で最後に使用されたあと、翌年12月には可搬式動力ポンプが配備されたことにより、第一線より退き、第一分団（旧神山村）詰所に保存されていました。

このポンプは、当時としては最新鋭のポンプで、価格は当時の300円（現在の概ね230万円相当）とのこと。文化財としても価値が高いと説明にも記されています。

東久留米に、このような貴重な「宝物」があったのだ、と改めて嬉しく感じました。

今回、同分団の建て替えがあり、この機会に市民の皆様にご覧いただきたくと展示をしたとのこと。

皆様も、この機会にぜひ足を運び、昔の方が消火活動に使ったこの「腕用ポンプ」をご覧になられてはいかがでしょうか。



【腕用ポンプの由来】

明治8年（1875）フランスから9台購入し、東京の消防に配備したのが始まりだったとのこと。

このポンプには、大正11年に新調した旨が記載されています。

製造は、武州川越江戸警察前、瀧上ポンプ製作所、と記録されているとのこと。



これは、ポンプの後ろから写真を撮ったものです。

タイヤの後ろにある3本が、水を給水するホース、車の上のタンクにあるハンドルを上下すると水がくみ上げられるのでしょうか。

持ち運び式井戸を連想しますね。また、子どもの頃、社会の教科書で昔の消防団の火消しの様子が描かれた挿絵を思い出しました。



49年間、保存されていたポンプさん、久しぶりに明るい場所に出てきて、まちの様子の変貌にさぞかし驚かれたことでしょうね。

今も昔も、どんなに気をつけていても火災がなくなることはありませんが、火災が起きた時に一生懸命働く車や人は、歴史ごとに姿を変えながらも昔からの使命は生き続けています。

市民の皆さんは、この「腕用ポンプ」をご覧になって、どのようなことを感じられるでしょうか。

猫の宮(=^.. ^=) 記